

池田 貞徳さんへ

この前はとて心に残る講演をしてくださいありがとうございました。ごいしました。ぼくは原爆の事に関してはおぼだしのゲン等本を読んで分かった気がしていました。が、池田さんの講演を聞いて広島島の原爆投下人を助ける人の気持ちがかすこく分かりました。特に、池田義三さんが川の生きているか死んでいるか分からない人たちをかついて燃やすのは、とても悲惨で怖かったです。はすこいよく気持ちがかかりました。この講演を聞いて、本当に日本も世界も戦争を絶対に二度としてほしくありません。講演本に当にありがとうございました。

江東区立第二亀戸小学校 六年組

伊藤 晃貴より

# 池田 眞徳さんへ

池田眞徳さんへヒロシマでの九日間のお話しありがとうございました。

池田眞徳さんのお話しの中で一番いんしょうに残ったのは焼けつげて皮ふがたれ下がって、ぼたぼたと粘液がたれこぼれを斜め前にたれ下げて歩いてくる、残こたみシンでした。かく爆弾の仕組みなども詳しくおしえてくれてありがとうございます。

これから他の学校にこのヒロシマでの九日間をお話しして、後生に原子爆弾の恐怖を伝えていってくださーい。

六年一組 岩本 拓海



池田 眞徳さんへ

池田さんこの前は素晴らしい講演を聴いていただき誠にありがとうございました。

日本が原子爆弾によってどのような影響郷音を受けたのかその時の兵隊たちが何を考えていたのかなどを知りたいと思います。ぜひ、お父さんが、原子爆弾の被害を受けた人に似せた人形を見たいです。ぜひ、お父さんが、原子爆弾の被害を受けた人に似せた人形を見たいです。ぜひ、お父さんが、原子爆弾の被害を受けた人に似せた人形を見たいです。

六年一組

奥平友宏

池田 眞徳さんへ

僕はまだ今回の池田さんの話を聞く前爆弾がどのよりの物が、そしてなぜ人を亡くならせるのか、よくわかりませんでした。

でも今回の池田 眞徳さんのお話を聞いていろいろなことを聞かしていたがきました。

爆弾という物のすゝみや、そして死んでいく人々などいろいろな、キモチや、お話しどうもありがとうございます。また、きんがければどうぞまたおつしくたさい。

第二豊戸小学校 六年組 倉田 耀平



地田貞徳さんへ

今回の講演を聞いて、

僕はこの現実の話も地田さんから聞きして

曰最初に思ったことは、こんなひさんな出来事が本当にあったのだろうか。今でもそう感じます。今の時代

日本は戦争のない平和な国です。その時代に生まれました

僕達にとって現に63年前にはこんな事があったとは思い

たくはありません。ですが現実にはあったことです。

このお話も忘れずに、次の世代につなげていけたらと思

います。地田義三さんから地田貞徳さんへそして地田貞徳

さんが僕達に、お話を下さったように僕達も次の世代に

つないでいきたいです。講演をしてくれてありがとうございました。

第二亀戸小学校 六年組黒木マ男志



池田ヒ具徳さんへ

くわしく、分かりやすく、講演をしてくださって、ありがとうございます。ございました。

原爆がどれほどおそろしいか、よく理解するこゝとができました。

一発の原爆の影響で一瞬にして、夫々人の人の命がうばわれるのは、実に残酷で、非心しいと田心います。なぜなら、何があ

き夫の分、知らぬまま、死ぬからです。死んでいった人々は、きっとこんな形で死ぬとは田心ていなかっただはずです。

池田さんのお父さんは十七才で陸軍に



入隊した。と聞いたが、十七才はまだ若い  
ですね。ほくにはきつと無理です。  
今度原爆ドームへ行っ。その時の  
人々の気持を感ぜたいです。

第二亀戸小学校 六年一組 相馬 拓美



池田貞徳さんへ

ゴルフボールほどの大きさの物が爆発しただけで、三キロもはなれた池田義三さんのところたまたで、熱風が届き、失神してしまっただけというのでも聞いて、原子爆弾の怖さなどがよく分かり、話の内容の中でも、一番印象に残りました。

今から、何十年も前に、原子爆弾や水素爆弾などを使って人を、何百人以上も殺していたという話を、戦争もない時代に生まれ、戦争もなく暮らしているぼくには、その原子爆弾が投下された後の広島の人々の様子など、想像してあても、とおそろしい様子なんだろうなと思いました。



池田義三さんが言った「きれいな世界を聞いて、ぼくは、戦争はもう二度と起きてほしくないな」と思いました。

貴重な話をしてくださって、ありがとうございます。

六年一組 竹内 佳章

池田真徳さんへ

昨日は二亀小に来てくれてありがとうございます。  
た。

池田ちゃんにとこもきなうなお話を聞かせてもら  
いとともためになりました。

また木ま系かぐぼくたんのお話しなととも分かり  
やすかったです。

次の学校でもがんばって下さい。

二亀小学校 武田 翔希





池田 貞徳さんへ

この前は二電で講演をやっていたとき、ありが  
とご報告しました。

ぼくは、広島から遠いし、関係ないやとずっと思っ  
ていたし、おまじを聞いて、あやがり同じ日本だし、  
ちやと知っておかないといけたよいのだなーと思いました。

江東区立第二亀戸小学校 六年一組 津村 隆弥



池田 貞徳 さんへ

ぼくは池田さんの話を聞いて思ふ事がいっぱいあります。その中で一番強く思ふ事はやっぱり核兵器は怖いんだなと思ひました。なむ怖いと思つたかと言つてウランなどの原子核が原子核分裂をおこし何々も離れてゐる場所までもが被害をうけると聞いた方がらさす。ぼくがびくりにした事はあんなすこしのウランで何万人や何十万人もの人々が死んでしまったという事がびくりにしました。

これがらも戦争の事をみんなにたえるために講演会がなほてくたさる。

江東区古第一亀戸小学校六一 初瀬 友昭



池田 七真 徳 さんへ

ぼくは、びっくりしたことがあります。それは十七才で陸軍に入隊して兵隊として働いていたことでした。

被爆をうけて死んでしまった人がたくさんいることや、体いっけがマダマダしまい皮膚がボロボロではかかれなくなって、いっけがマダマダを想像するとぞっとしました。

ぼくは、原爆と言っく名前を聞いたことはありましたが、何人もの人の命をうばい、広島市内を焼け野原にするほどおそろしい物とは、知りませんでした。

自分は、戦争の無い時代に生まれて本当に幸せ者だぞと思ひました。

ぼくは、池田さんの話を聞いて、原爆に興味を持ったので、池田さんの書いた「ヒロシマの九日間」を、読んでみ

たいなまと思ひました。

先日は、とても矢参考になる、お話を聞かせていただき、ありがとうございます。

六年一組 茂木 徳晃





池田 眞徳さんへ

池田さん、今回の講演のときは、本当にありがとうございました。  
池田さんのお父さん、池田義三さんが十七才で陸軍に入隊したと聞いてびっくりしました。わずか十七才で陸軍に入隊するなんて、私からすることでも考えられぬくらいすごいと思いました。

亡くな、夫人を父そうする所まで運ぶ仕事はとても大変だと思いましたが、亡くなった夫人は焼けて皮ふがはがれていて、とても残こくたと思いましたが、でも、その仕事をやりぬいたのだからすごいと思います。

これからも、他の学校の人たちに戦争のことを伝えていく、  
てくだささい。

六一 阿曾 優果





池田 貞徳さんへ

池田さんのお父さんの話を聞いて、体の皮膚が焼けはがれると言っていたところで少し気持ち悪くなってしまう。た。でも、池田さんのお父さんは毎日そんなものを見ている。と考えると池田さんのお父さんの方が最初だけかもしれないけれど、気持ち悪か。たのたろうと思えます。十七才という若さで、陸軍に入隊し、約一年後に爆心地へ行くというのは今の日本ではありえないと思えます。

私は今の日本に産まれて、ラッキーだったのだけ、ないかと思えます。ですが未来は、たれにも分かりません。私が生きているときにも、戦争や実験地



幸七の爆弾



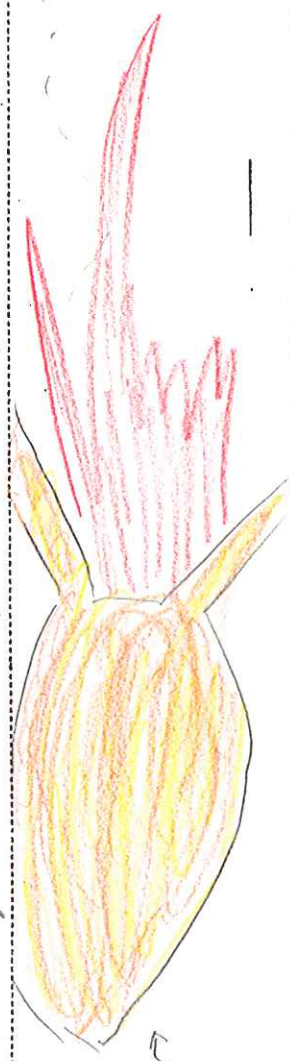
幸七の爆弾







にされてたら逃げるか自殺のどちらかを選ぶと思います。  
 池田さんのおかげで良い体験ができました。これから  
 この活動を続けたいと思います。  
 今回は本当にありがとうございました。



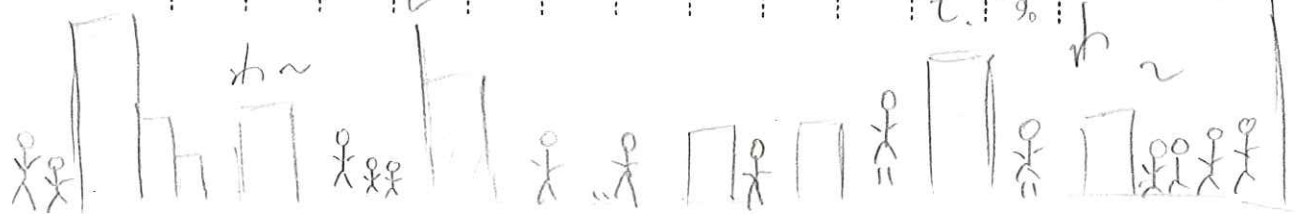
たいは  
めのある  
炸の爆弾  
(おたひかび)

第二亀戸小学校

六年一組

小川千優

たいは  
めのある  
炸の爆弾  
(おたひかび)



## 池田眞徳さんへ

池田眞徳さん、この前の講演会、わざわざ二亀小にきて話をしてくださり、ありがとうございます。今、六年生は社会の時間や国語の時間に、被爆に関係するべんきょうをやると思っています。池田眞徳さんの話は国語、社会のべんきょうに関係することだったので、さんこうになりました。どうもありがとうございます。

池田眞徳さんの話は、うごきを付けて話しているので、分かりやすかったです。そんな中、私の心に残ったところは、「皮ふかかんたんにとれてしまう」といっていた時。そう思うと、かあいえうなんてもんじゃない。ほんこくでびんこくで……。何にもいえないと思います。でもそれを目にした池田眞徳さんのお父さんは、私が

そう思うより苦しかったと思います。お父さんも苦し  
かったと思いますが、やけてしまった人も苦しかったら  
と思います。

これからいろいろな小学校へ講演をし、被爆  
のことを教えていってくださいます。

平成二十年十一月十日

第三亀戸小学校六年 加藤岡琴美



池田 七真徳さんへ

私は池田さんがここでは事実しか話さないとい  
った時、おじろさましました。

なぜなら、私は広島であった九日間について話し  
てから、教訓や感想などを説いてくれるのかと思っ  
たからです。

池田さんは私たちの感想を知りたいとおっ  
しゃっていたので、私はこの手紙で感想を述べま  
す。

池田さんのお父様である池田義三さんの実  
体験を聞いていると思わぬ胸が苦しくなっ  
た。生々しい景色などは話を聞いて、想像する  
だけでも気持ちよくなれないのかよくなりました。

時によく出て来た、広島市中心部の人とは思えない人たちの少女が、目に浮び、思わす目をふせてしまいました。また、原子力爆弾のいかに、おどろきがかくせませんでした。私は人口密度五千五百二十四人の東京に原爆が落ちてしまったらどうなるか考えただけで身の毛がよたちます。

広島に原爆が落ち、ぎせい者二十四万人を出してまで、戦争をする必要があったのか、つくづく疑問に思いました。

私たちが大人になった時は、絶対に戦争を行ないません。

江東区立第二亀戸小学校 六年一組 河原めぐみ

池田 眞徳さんへ

私は「ヒロシマの九日間」と言う講演を聞いてこんな事を感じました。まず気になつたのは池田さんの話し方です。原爆を体験したのは父の義三さんなのにまるで自分が体験した事のように話して話し方が上手いなーと感じました。後、講演を聞いて印象に残ったのは亡くなった人を運ぶシーンです。見ているだけであつらいのに人を運ぶなんて当然私にはできません。ですが池田さんはそれを「ヤダと言葉に出さず」心の中にしまっておいた事がよくがまんしたなーと思ひました。しかもその場に一日以上居たなんて私は心の奥底から



いやだ逃げたい。と田んぼにいます。なので私は池田  
さんを信頼しちゃいます。なのでこういう話し  
をもちと他の人たちにしてほしいと田んぼにいます。  
それで、今まで日本がやまってきた事をいかにして  
今もそとして未来も平和な時代にした  
したいと思います。

第二電戸小学校 六年一組 木村知由

池田 貞徳さんへ

私は一番前で書いていました。

池田さんの話を、ひとこととで、まとめると、  
悲しみと苦しみで、うまっていて、私は、とても、  
かわいそうだなっと思いました。

すごいやけどで、おおわれている人とか、色々色々  
話をきいて、分りました。

池田さんが私に、被爆の、話はじめて、きいたか  
いと、いわれ、私は、きいたことは、ありませんと、答  
えました。でも、池田さんの、話を、きいて、こんどは、  
母さんとかにも、父にも、池田さんの話を、よう  
に、考え、あかようかな、と思いました。

ちょっと悲しい話も、あったけど、色々なことをしりました。

第二亀戸小学校  
六年一組 堤菜々子

池田 眞徳さんへ

私は十七才で陸軍に入隊したことにびっくりしました。私でいうと五年後に入隊しているようなものです。こんなにかわいのに入隊して軍からいわれた仕事をしているなんてびっくりしました。

ス々は赤くやけひぼかんと人にはがれてしまつたことを想像したらこわくなつてしまいました。でも、実際日本でおこつたことで、私たちは平和な時代に産まれて幸せなんだ、もうこういふことはおこつてほしくないなと思ひました。資料館で人形を見て言つたとき



いすぎる」といったのは、現実にはもっとすこ  
かったんだな、実際、経験した人にしかわか  
らないなと思いました。  
わざわざ学校に来てお話をしてくださり  
ありがとうございました。

第二亀戸小学校

六年一組 花岡 汐里

池田と泉徳さんへ

今回、池田さんのお父さんが被爆体験をしたことをお話しくれてありがとうございます。うごやいました。

私は、原子爆弾が爆発した場所の近くに住んで、体ごとかよくなつてしまふという話を聞いて、おそろしいなと思いました。

池田さんのお父さんが人を助けようとしたら、その人の皮がはがれたという話を聞いて、きっとお父さんは、びっくりしたし、こわかったと思つていたんじゃないかと私は思っています。もし私が池田さんのようなことになつたら、きっとこわくてこわくて、しばらく体が動かなくなると思っています。

被爆がおきて、その後、死体を焼くとき、池田さんのお父さんは、

人を助けられなくてくやしかったんじゃないかな。と思っています。  
原子爆弾は、おそろしく、こわい物だと私は思っています。

第二亀戸小学校六年一組 十四家飛鳥



池田眞徳さんへ

この間は「ヒロシマの九日間」と言った講演を聴いて、ありがとうございます。ごさいました。講演で、原爆のことがよくわかりました。

戦争が起きない、今と、戦争の起きた時の昔とのちがいが、かともあることか、びっくりです。このまま平和で戦争が起きないように、思いました。

第二亀戸小学校

六年一組 御代川 有華里

池田 眞六徳さんへ

今回は、広島と長崎に落とされた原爆について、お話しを聞いて、たった一回の爆撃でたくさんの人々が命を失い、大変だった当時が思い浮かびました。

原爆ドームの写真を見ているよりも、写真から、フワフワ大切な気持ちなどが伝わってきました。

今だから、体験は出来ないけれど、陸上自衛隊の人は、ホの中にうまった爆弾をと、きよ活動をしている所のえいぞうを見ることがあります。広島の原爆よりいかは弱いかもしれないけど、同じ物だと思おうと二めいです。

今の社会でならう、広島島の原爆とはちがい、たい  
けんした人の話は、一言が大切ではじめてした  
事はかりでした。

昔があるから今の日本は平和なのかなと  
思います。

今回は、すばらしいお話 ありがとうごさい  
ました。

第二亀戸小学校

六年一組

村上

仁美